

## 主と従の関係

### 1. ウグイス



ウグイス

冬の間チャッチャと笹鳴きしていたものが、3月の上旬になるとさえずり始めます。ホーホケキョとは聞こえないケキョとかホーホケとか、小声で練習です。下旬ともなると大きな声でさえずるようになります。打吹山の個体はあまり上手でなく、ホーホケホケキョとさえずる個体が多いようです。鳥は巣立ちの時期に親の鳴き声を聞き、それを真似するような習性になっています。「刷り込み」といわれる現象で、一度入力されると一生そのままです。そこで地域差がでます。

さえずるのは雄で、雌は年間チャッチャという笹鳴きです。雄のなわばり宣言がホーホケキョですので、どこでもさえずっているわけではありません。遊歩道一回りのうちに4~5箇所で見えればよい方です。音程の違いで3種類の聞き分けができれば聞き分けの達人です。また、ケキョケキョケキョ・・・と続ける、通称「谷渡り」と呼ばれる鳴き方は警戒鳴きです。

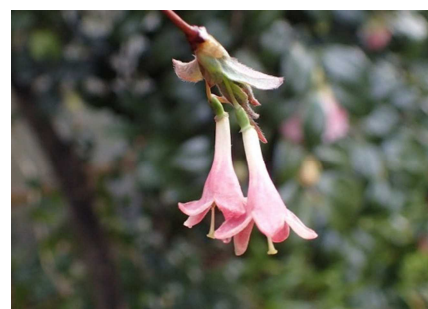
藪の中でさえずるため姿をみることは困難ですが、時々冬枯れの樹の梢(こずえ)で鳴くときは、喉を膨らませ、口を開ける地味な鳥に出会えます。同じ場所でじっと待つことが秘訣です。4、5月になればササの葉を巻いて作った巣の中にチョコレート色の卵をみることもできるのですが、ちょっと難しいでしょう。

### 2. ウグイスカグラ

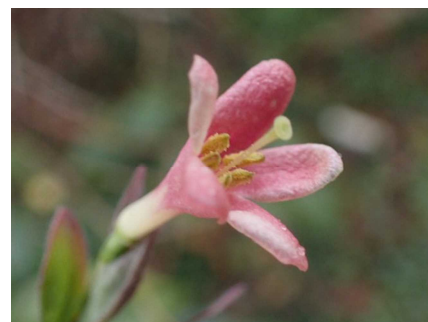
ウグイスと神楽を結びつけた命名は理由がはっきりしないようですが、ウグイスは鳥のウグイスに間違いのないようです。ウグイスの鳴きが印象的な時期に、花が群れ咲く様子を神楽と結びつけたのではないのでしょうか。

花は新葉が展開する3月下旬から4月にかけて咲きます。この時期だけ存在に気づく、よく枝分かれした1~2mの低木です。淡いピンクの長さ2cm近い筒状花が下向きに葉腋につきます。日当たりの良い場所では花が多く、陰にある木は全く咲きません。したがって、気付くのは遊歩道脇の個体です。打吹山の頂上と武者溜側への降り口、途中の遊歩道脇が特に花の多い木です。葉だけではわかりにくい木ですので、花の時に覚えると良いでしょう。楕円形の特徴的な葉で、大きな托葉(たくよう)が枯れても残りますし、樹皮の剥げ方など覚えてしまえば、案外多く生育しているのが分かります。

場所を覚えておくと実を食べることができます。6月になると丸い液果が熟し、透明感のある赤色の実で食欲を誘います。甘く、倉吉では「豆イチゴ」と呼ばれ、グミのような渋味がないため好まれていました。ラグビーボール型の大きな種が欠点です。



ウグイスカグラの花



突出しているめしべ